

2008年度（平成21年3月期） 第56期 決算説明会

（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

Tokyo Cathode Laboratory Co., Ltd.

©Copyright 2009 TCL All rights reserved

Contents

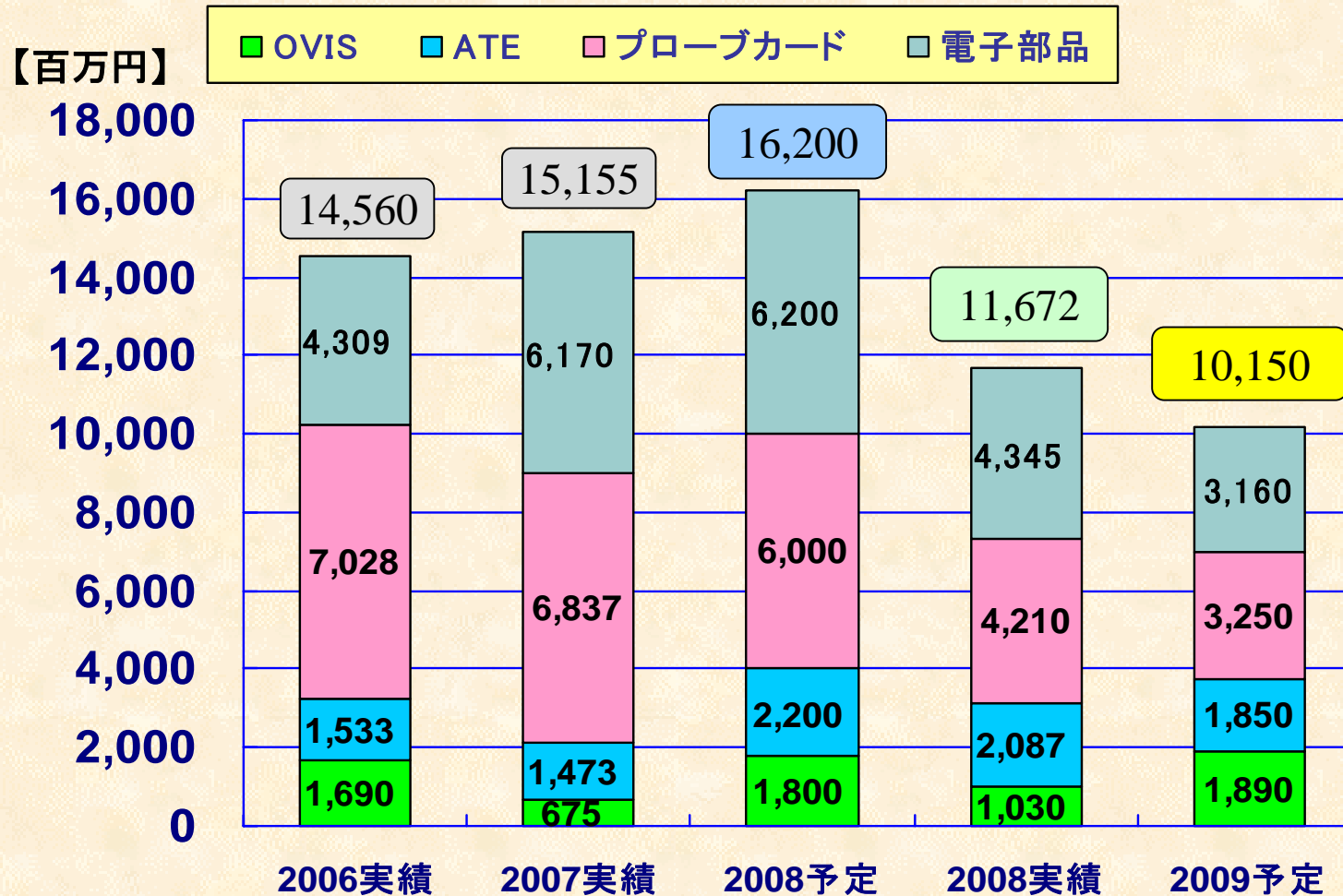
1. 【連結】業績比較と2009年度予想
2. 【連結】売上実績・予定推移
3. 【連結】セグメント別比較
4. 設備投資額・減価償却費・研究開発費
5. 2009年度損益改善施策

1. 【連結】業績比較と2009年度予想

【連結】 区 分	平成20年3月期 【実績】		平成21年3月期 【実績】		対前年比	
	金額(百万円)	百分比 (%)	金額(百万円)	百分比 (%)	増減(百万円)	増減率(%)
売 上 高	15,155	100.0	11,672	100.0	△ 3,483	△ 23.0
売 上 原 価	10,859	71.7	9,534	81.7	△ 1,324	△ 12.2
売 上 総 利 益	4,296	28.3	2,138	18.3	△ 2,158	△ 50.2
販売費及び一般管理費	3,492	23.0	3,619	31.0	127	3.6
営 業 利 益	804	5.3	△ 1,481	△ 12.7	△ 2,286	-
経 常 利 益	793	5.2	△ 1,567	△ 13.4	△ 2,361	-
当 期 純 利 益	165	1.1	△ 2,674	△ 22.9	△ 2,839	-

【平成22年3月期】	<(通期) 連結業績予想>				(単位:百万円)
発表日	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	
2009年5月14日 決算発表	10,150	△ 360	△ 340	△ 360	

2. 【連結】売上実績・予定推移



※過年度は、2008年度セグメント区分変更を組み替えて表示しております。

3. 【連結】セグメント別比較

(単位: 百万円、%)

セグメント		平成19年3月期	平成20年3月期	平成21年3月期	平成21年3月期	平成22年3月期	
		通期実績	通期実績	<修正予想>	通期実績	<計画>	対前年比
電子部品 事業	売上高	4,309	6,169	4,200	4,345	3,160	72.7%
	営業損益	612	838	-180	-47	110	-
	利益率	14.2%	13.6%	-4.3%	-1.1%	3.5%	
プローブカード 事業	売上高	7,028	6,837	4,150	4,210	3,250	77.2%
	営業損益	1,298	1,244	-360	-253	150	-
	利益率	18.5%	18.2%	-8.7%	-6.0%	4.6%	
A T E 事業	売上高	1,534	1,472	2,250	2,087	1,850	88.6%
	営業損益	-657	-7	-30	9	40	441.9%
	利益率	-42.8%	-0.5%	-1.3%	0.4%	2.2%	
O V I S 事業	売上高	1,690	675	1,200	1,030	1,890	183.5%
	営業損益	363	-447	-230	-377	-10	-
	利益率	21.5%	-66.2%	-19.2%	-36.6%	-0.5%	
(小 計)	売上高	14,560	15,155	11,800	11,672	10,150	87.0%
	営業損益	1,616	1,627	-800	-669	290	
消去又は全社	売上高	-	-	-	-	-	
	営業損益	-648	-823	-800	-812	-650	
合 計	売上高	14,560	15,155	11,800	11,672	10,150	87.0%
	営業損益	968	804	-1,600	-1,481	-360	
	利益率	6.6%	5.3%	-13.6%	-12.7%	-3.5%	

※過年度は、2008年度セグメント区分変更により組み替えて表示しております。

2008年度 決算説明会

4. 設備投資額・減価償却費・研究開発費

【連結】	平成20年3月期 【実績】(百万円)	平成21年3月期 【実績】(百万円)	増減額 (百万円)
設備投資額	431	※① 391	△ 39
減価償却費	530	574	44
研究開発費	460	686	226

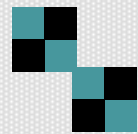
平成22年3月期 ＜予定＞(百万円)
※② 120
450
400

主な内容	【実績】※①	主な内容	＜予定＞※②
親会社 プローブカード事業	280 百万円	親会社 機械装置他	40 百万円
子会社 機械装置他		子会社 機械装置他	
内田工業	41 百万円	内田工業	30 百万円
北光電子工業	27 百万円	東針電子	20 百万円
東針電子	29 百万円	シンガポール	30 百万円
シンガポール	13 百万円		

5. 2009年度損益改善施策

足元の不況下における改善施策として、以下の施策を実施いたします。

	実施項目	金額(百万円)
労務費削減	取締役報酬カット	820
	執行役員・管理職給与カット	
	従業員賞与カット	
	一時帰休の実施	
経費削減	事業部経費 (開発費等)	460
	一般管理費 (保険等)	140
投資抑制	設備投資	270



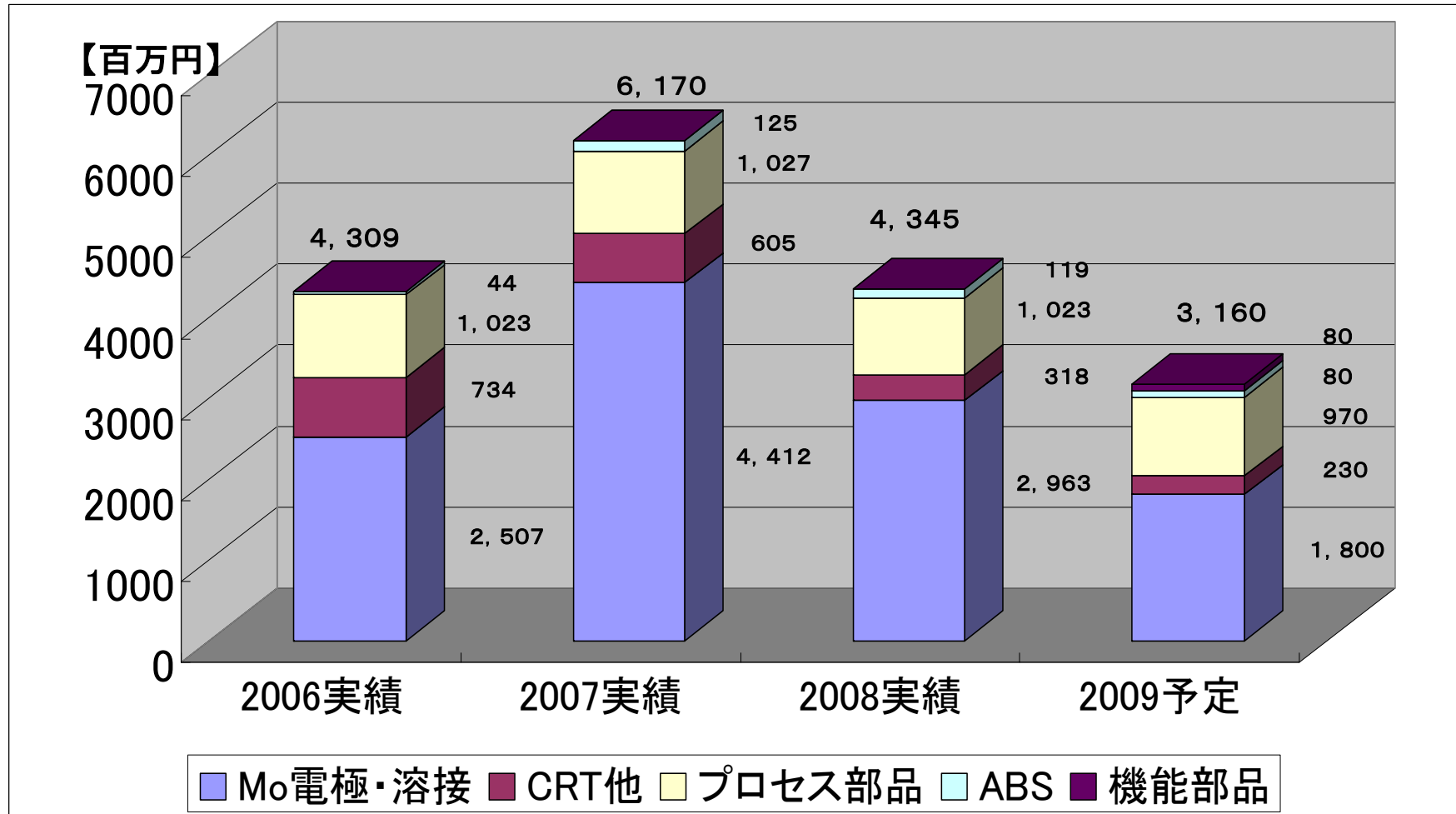
電子部品事業

Contents

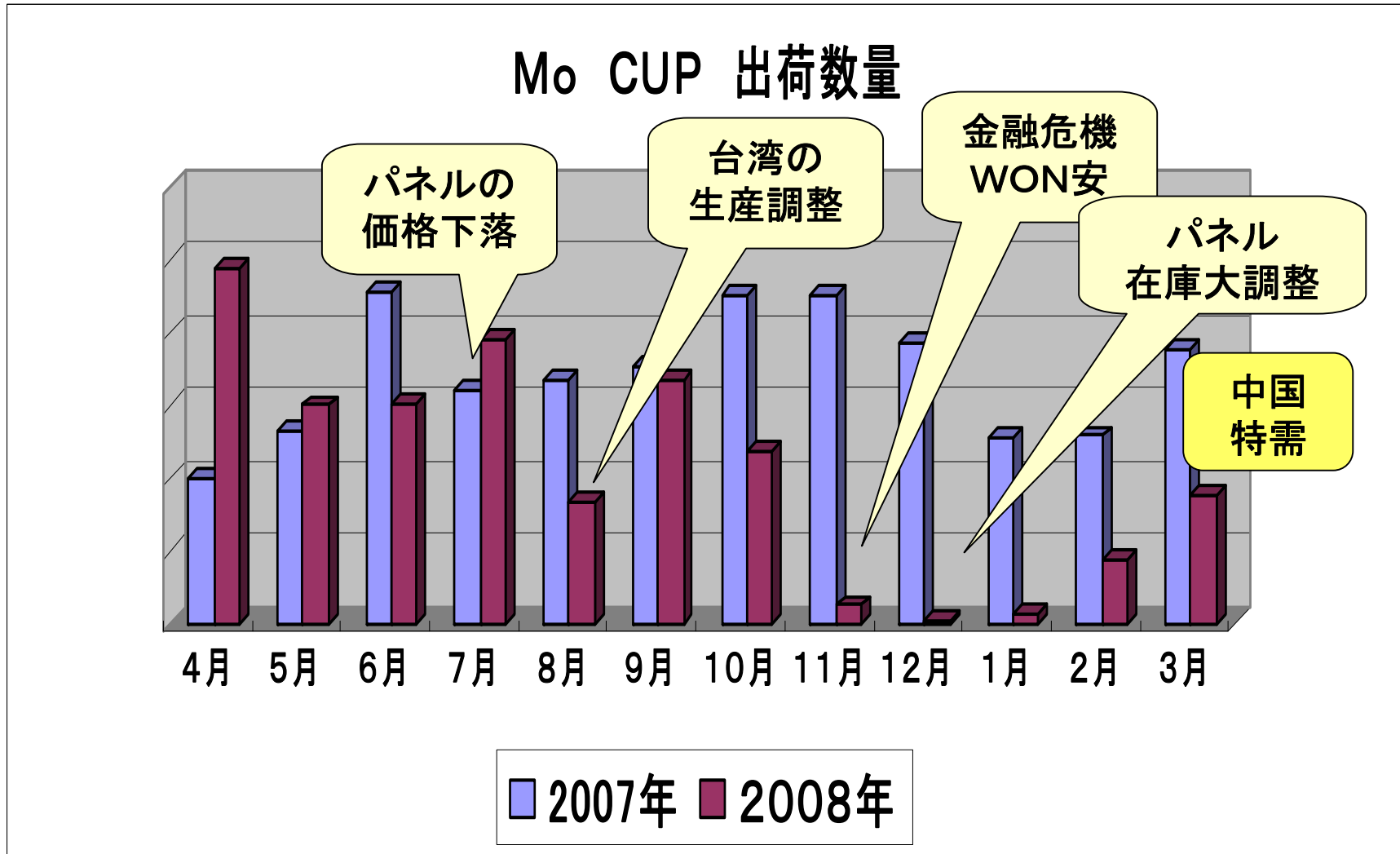
1. 【連結】売上推移と2009年度見通し
2. Mo CUP(組立品含む)数量実績・予測
3. 半導体部品

1. 売上推移と2009年度見通し

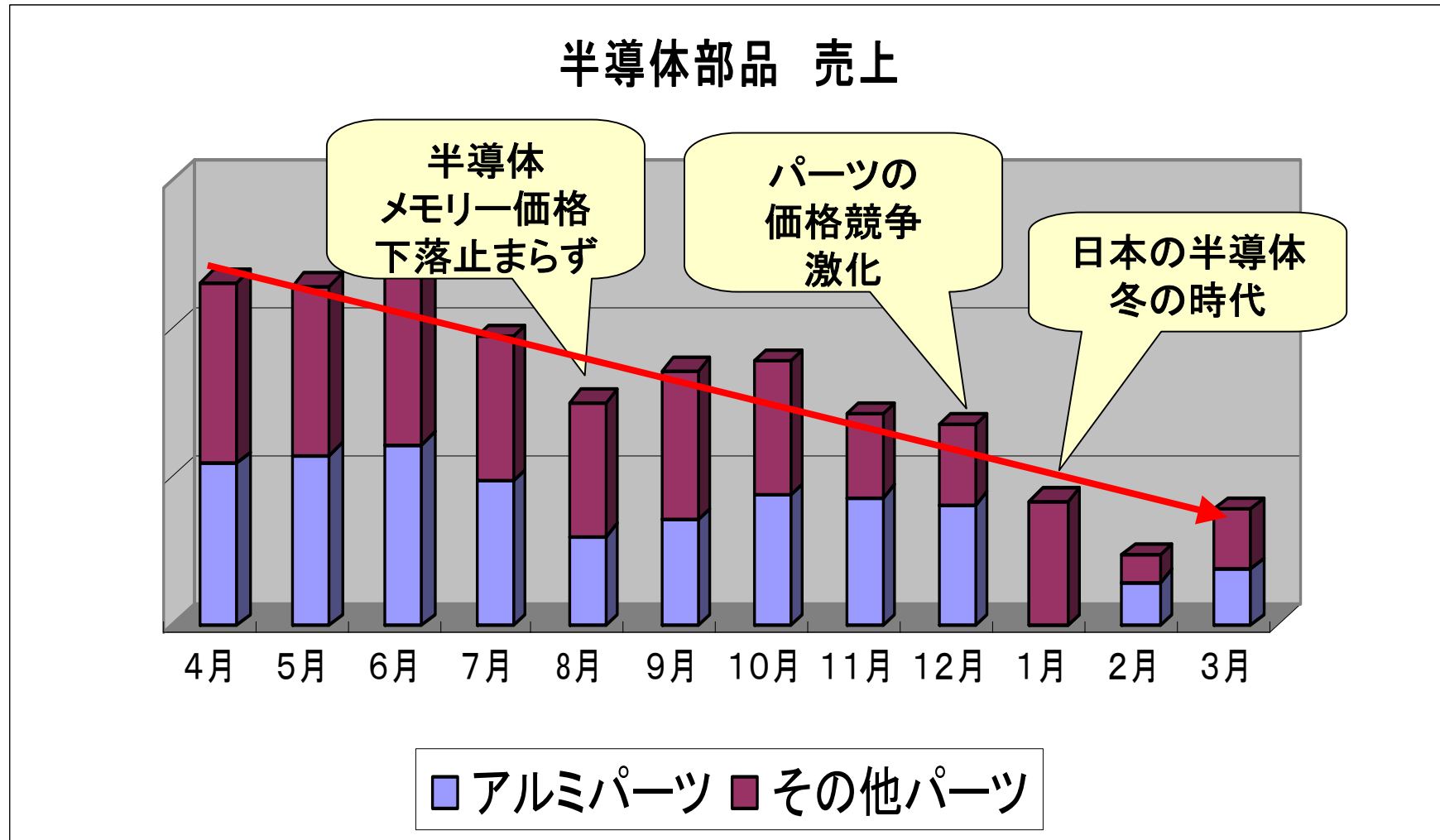
電子部品事業



2. Mo CUP(組立品含む)数量実績と予測



3. 半導体部品



4. 今後の対応

電極

■ Mo電極とNi電極の共存

Mo電極が、コストが高いという理由で一部を除きほとんどNiにシフトしている。Mo電極だけではビジネスにならないので、Ni電極のMo支持体溶接ビジネスを開始。Mo + Ni のビジネスはしばらく続きそうである。

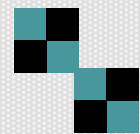
■ 拡販の強化

韓国でのビジネスへの部品供給や、日本の他社への売り込みにより、販売先を拡大し、売上増をはかる。

半導体部品

■ 顧客開拓と拡販

新しい顧客への売り込み強化と、数量増による量産効果でのコスト低減を図り、価格でのメリットを含め、拡販をしていく。新規部品の開拓も行う。



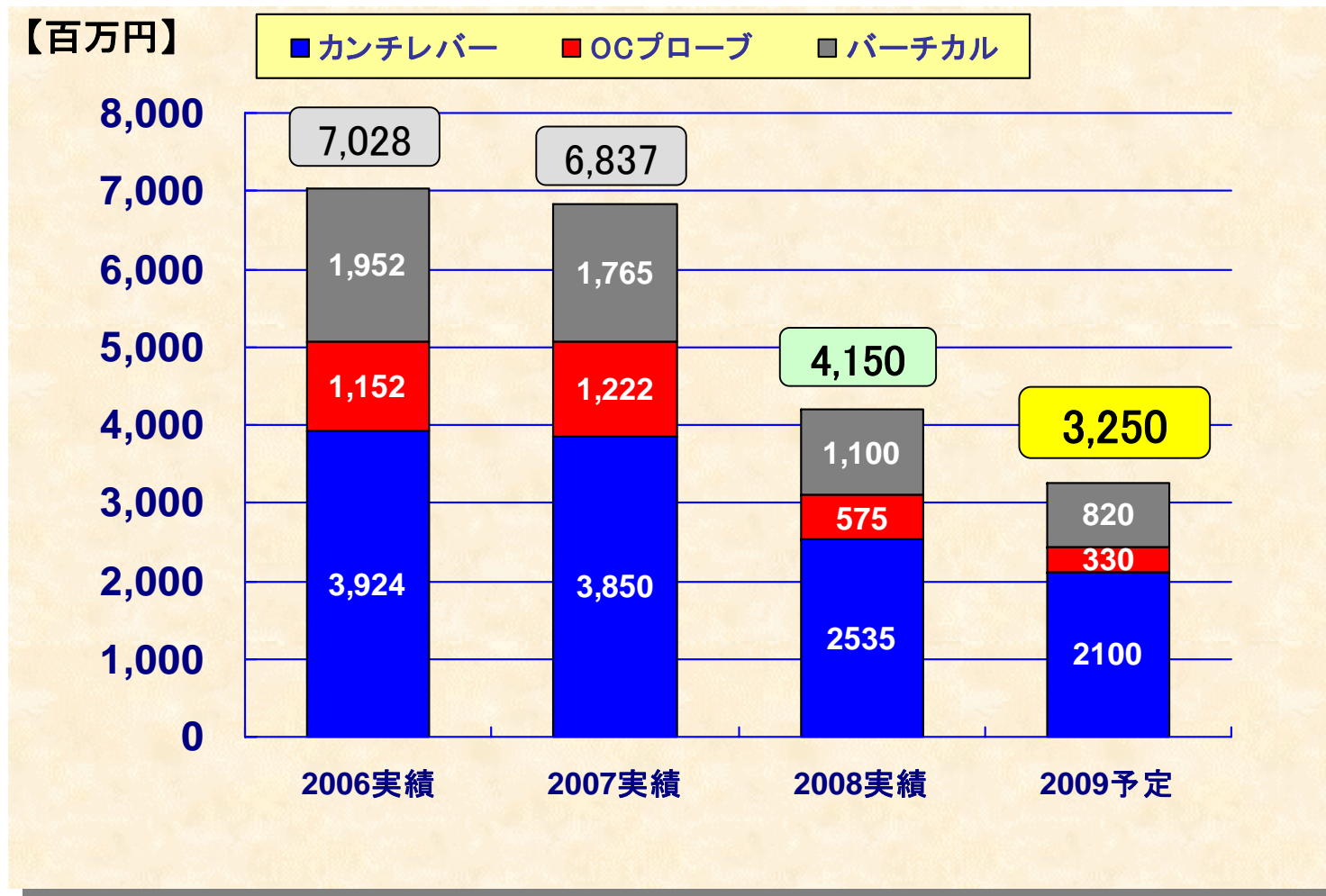
プローブカード事業

Contents

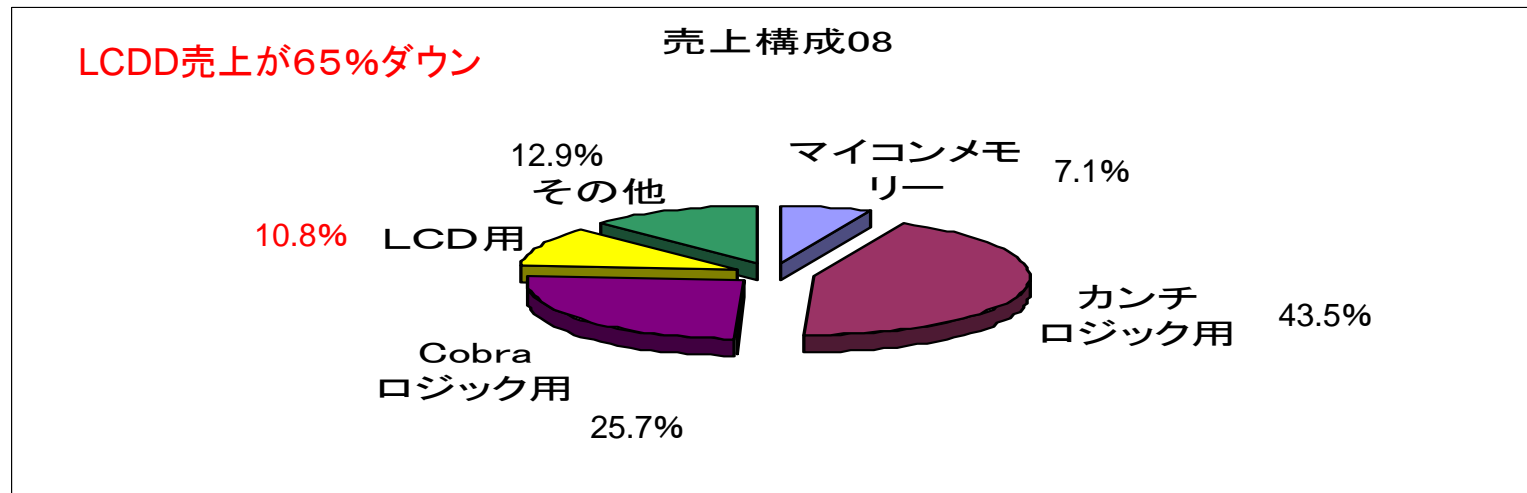
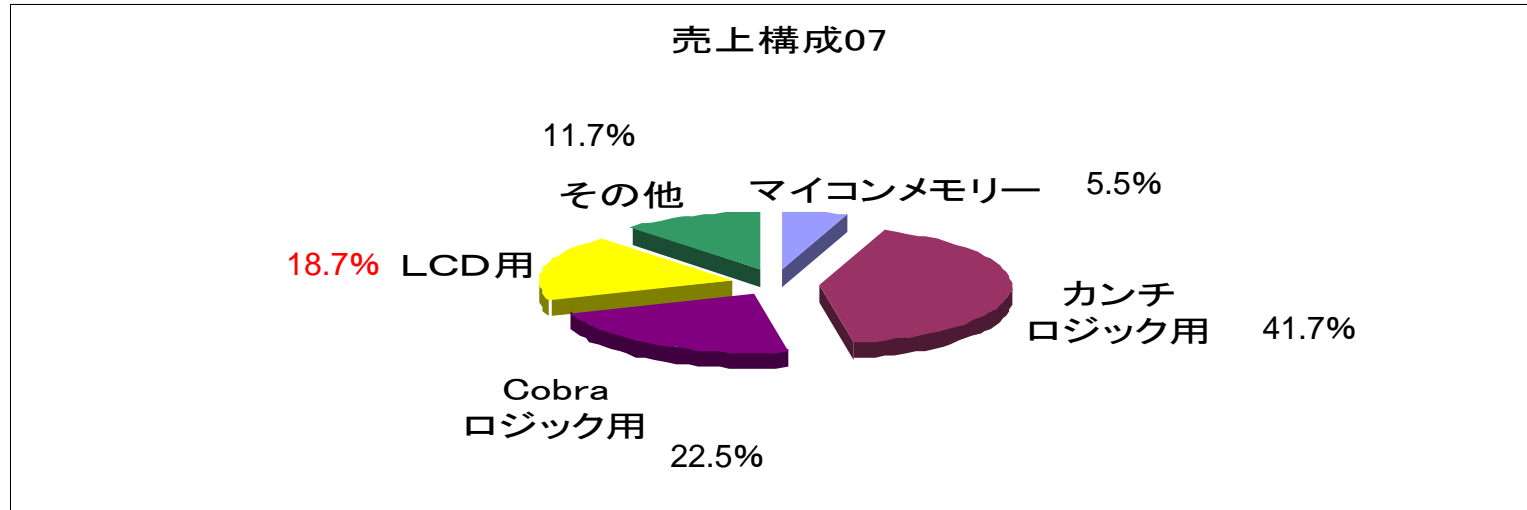
1. 【連結】売上推移と2009年度見通し
2. 主要製品別状況
3. プローブカード事業分析

1. 【連結】売上推移と2009年度見通し

プローブカード事業



2. 主要製品別進捗状況



3-1. プローブカード事業分析

2008年度の状況分析

- ◆ 売上実績については、対前年度比▲40%と大幅なダウンとなりました。
- ◆ カンチレバーについては、LCDドライバ市況低迷によるOCカード売上が伸び悩みが継続。
また、主力のマイコン、デジタル家電市場においても、昨秋の金融危機に端を発する急激な半導体不況により、3Qより受注が大幅に失速し、ロジック・マイコン内蔵メモリ向けカードも大幅な売上ダウンとなりました。
- ◆ Cobraについては、ゲーム機向けが比較的堅調でありましたが、スパンションジャパンの低迷、会社更生法適用による影響により、前年度比▲31.6%となりました。
- ◆ ACプローブ(カンチ)については昨年度にリリースさせていただきました。素子上Padデバイス(CUP品)向け低針圧対応であり、需要が増えてきています。対前期比285%となりましたが、カンチレバー構成比4.2%とまだウエイトが低く、売上カバー要因には至りませんでした。

3-2. プローブカード事業分析

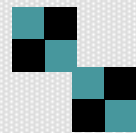
2009年度の動向予想と対応

- ◆ 2009年度も半導体業界の状況は不透明であり、プローブカード市況も厳しい状態が続くものと予想されます。
- ◆ 大手半導体メーカーの再編が報道されており、その他のメーカーでも少なからず同様の検討をされている可能性があります。これらの統廃合によりどのような影響がでるのか注意深く見ていく必要があります。
- ◆ プローブカード市場は前年度と比べて更に縮小することが予想されます。
- ◆ このような状況の中で、弊社の売上計画も縮小計画になっています。この計画は確実に達成されなければならない計画であり、できるだけその上を狙うべく社員一丸となり以下のような活動をして行く所存です。

アドバンスドカード	:	狭ピッチ・多数個取りニーズに対し市場投入予定。
カンチレバー	:	ACプローブを軸に、顧客ニーズに対応した針立て技術向上を目指す。
Cobra	:	エリアバンプ市場での高シェア維持と低価格ニーズに対応したラインアップの確立。
コストダウン	:	中国工場の生産能力向上、原価低減の追及。

2008年度 決算報告

<http://www.tclab.co.jp>



ATE事業

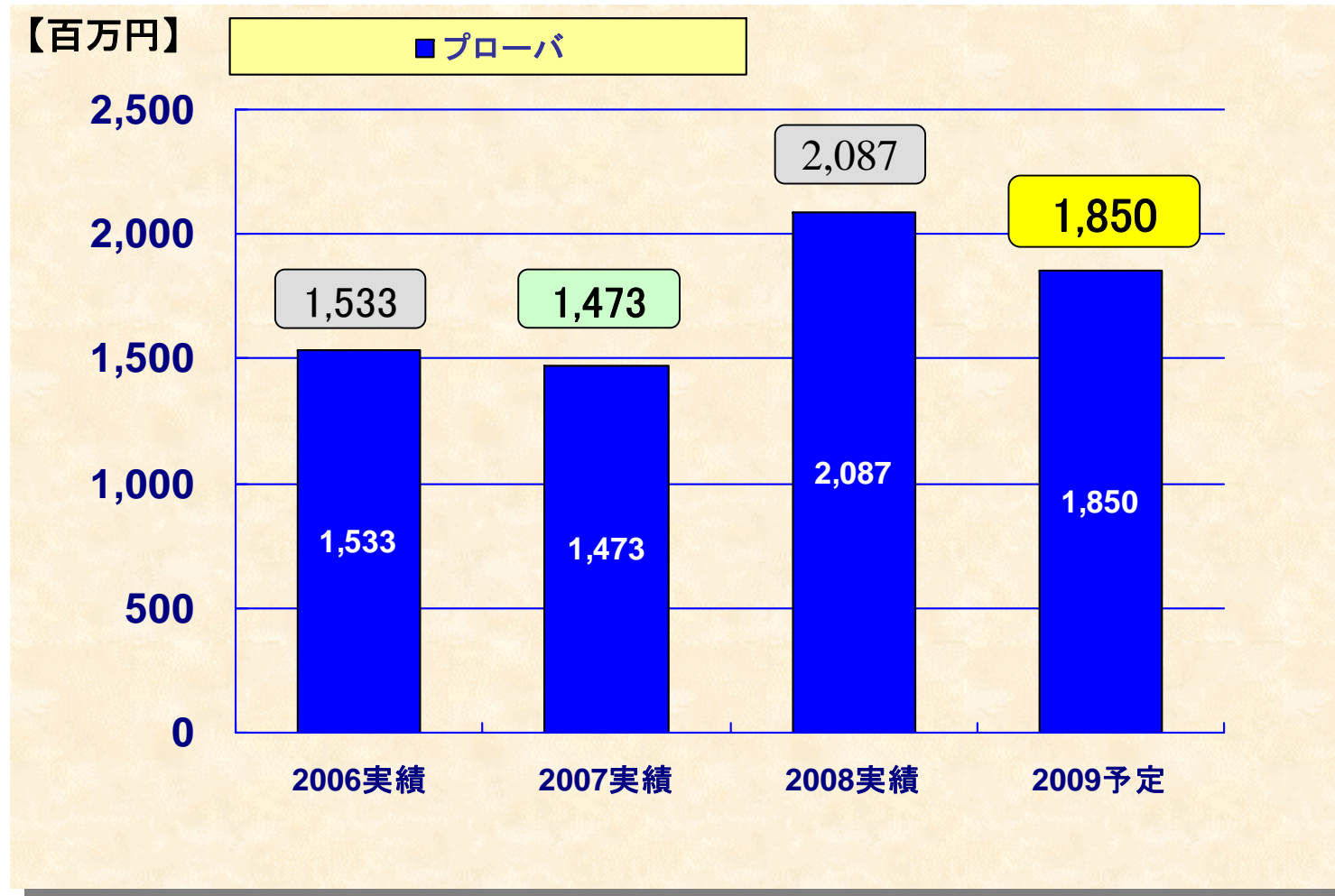
(Advanced Test Equipments)

Contents

1. 【連結】売上推移と2009年度見通し
2. 2009年度計画と戦略

1. 【連結】売上推移と2009年度見通し

ATE事業 (過年度は、従来の装置事業より「プローバ」を分離して表示しております。)



2. 2009年度計画と戦略

■ ATE事業の事業展開

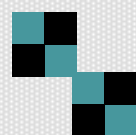
- 市場が拡大しているFPD用オープン/ショート検査機(モデル名: LDAS)のビジネスに経営資源を集中する。

■ LDAS事業拡大戦略

- 欠陥検出力の向上(ソフトオープンおよびクロスショート欠陥)
- 開発チームの強化
- 中国営業、CS体制確立
- 短納期体制の確立(リピート受注納期 4ヵ月を目標)
- 海外生産体制等によるコストダウン(20%以上のコストダウン)

2008年度 決算報告

<http://www.tclab.co.jp>



OVIS事業

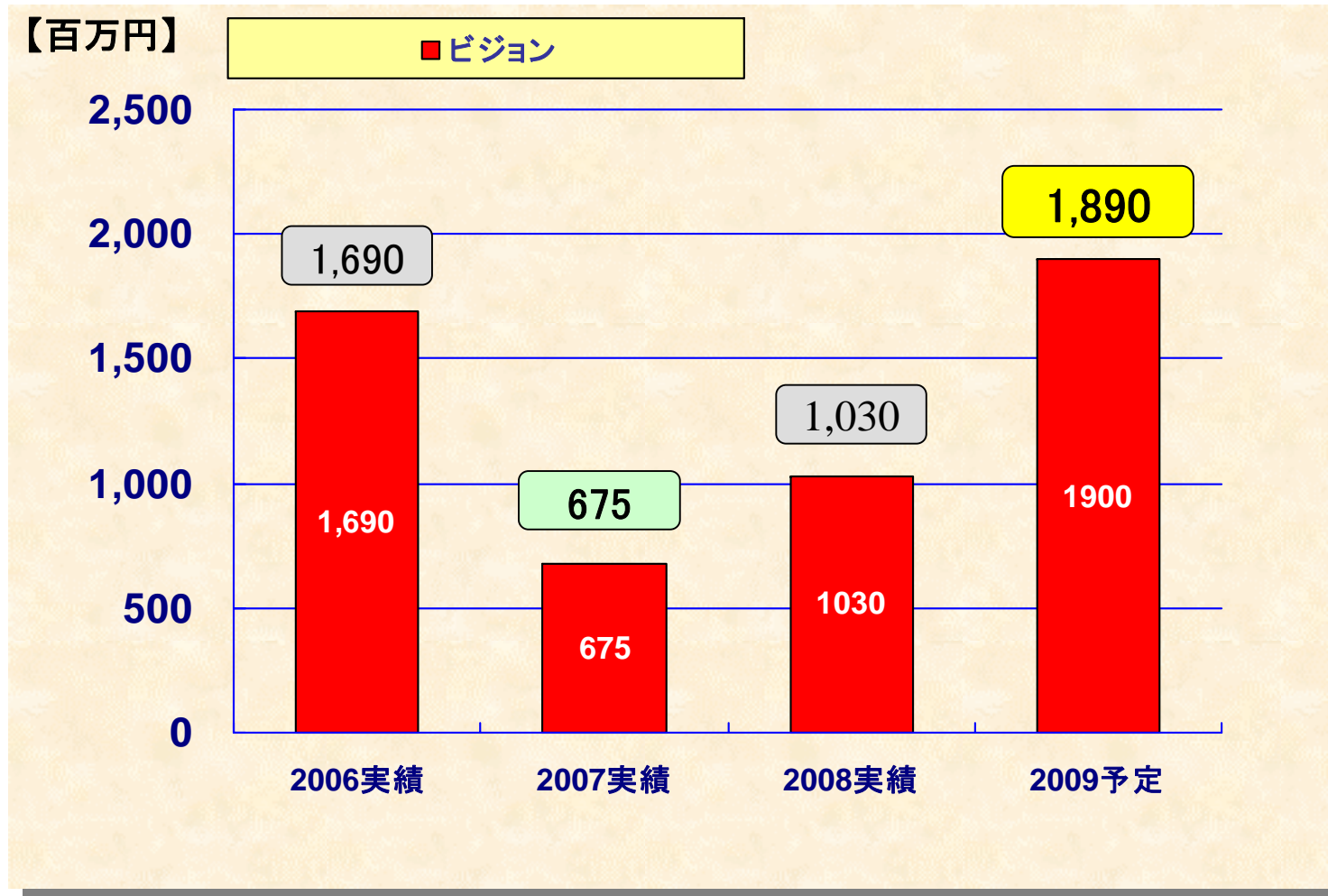
(Optical Vision Inspection System)

Contents

1. 【連結】売上推移と2009年度見通し
2. 2009年度計画と事業戦略

1. 【連結】売上推移と2009年度見通し

OVIS事業（過年度は、従来の装置事業より「ビジョン」を分離して表示しております。）



2. 2009年度計画と事業戦略

■ OVIS事業の計画

- 透明導電膜(クリアーフ)の製品(高品位タッチパネル市場)リリース
- FPD業界への合理化システムの拡販(主に後工程合理化促進)

■ OVIS事業戦略

- 透明導電膜事業の垂直立上げ(生産委託先含む)
- 上記、生産管理ならびに品質管理体制の強化
- Promise/Dream/Dream II の更なる進化(性能アップグレード)
- Laser技術を用いたシステムでの異業種参入検討
- 国内(ネットワークベンダー)・海外での生産体制確立等によるコストダウン(10%以上の成果追求)

■ 本資料の取り扱い上の注意

本資料に含まれる本年度見通しに関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した数値であり、多分に不確定要素を含んでおります。従いまして、実際の業績等は、業況の変化等により、記載した予想数値と異なる場合がありますことをご了承ください。

End of File